

異業種六社が結集し製品開発



企業連携

イオンテクノ株式会社

小林 忠宗

私がイオンテクノ(株)を設立するきっかけとなったのは、今話題の「トルマリン」との出会いからである。

昨年の二月初め、私が経営する別会社、小林ダクト工業(株)の事務所でA住宅会社の社長と話をしている時のこと。同社社長が樹脂コンクリートパネルを開発するにあたって、山形県工業技術センターにアドバイスを受けるために通っていた際、「トルマリン」の効果・性質の話聞いたという。「トルマリンからはマイナスイオンが出て体に良いんだ。小林社長の会社は空調、建築、上下水道工事やいろいろしているんだもの、何かに役立つと思うよ」と教えてくれたのである。

後で勉強して分かったのだが、このトルマリン天然石は快眠・食欲増進・血圧低下・疲労回復作用等があると言われるマイナスイオンを自然発生する性質を持っているだけでなく、人体に有害とされるオゾン等をいっさい出さないという特徴を持っているのである。興味をそらされた私は、さっそくその場か

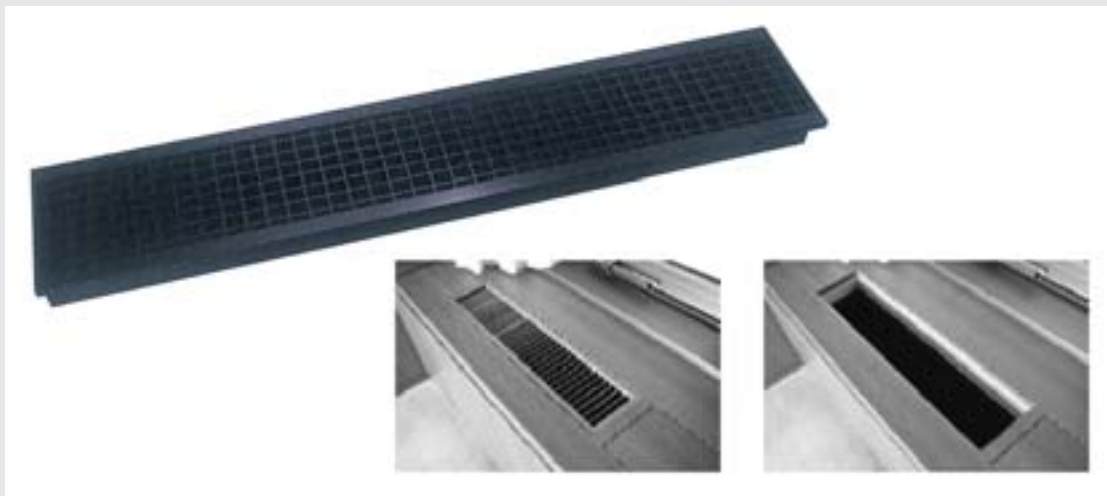
ら電話でアポを取ってもらい、その日のうちに山形県工業技術センターに話を聞きに行ってみた。善は急げとはよく言ったもので、ちょうどその時山形県工業技術センターの先生と居合わせたテイエム・テクノ(株)の草刈社長とお会いすることができた。草刈社長は県内でもトルマリン研究の草分け的存在であり、山形県工業技術センターの協力を得ながらこれまでさまざまな商品開発に取り組んでこられた経歴の持ち主でもある。

ここでの出会いがきっかけとなり、私自身もトルマリンの新たな活用方法がないものかと、本業である空調ダクトの視点から開発に取り組む事にした。昨今、水や空気といった自然の作用が注目されており、トルマリンを使ったマイナスイオン発生体の仕組みを応用した商品開発ができれば、新たなビジネスになると考えたためである。

それからというもの、何度も山形県工業技術センターと草刈社長の所に通ってトルマリンに関する勉強をする日々が続いた。よう

やくトルマリンに関して自分なりに理解できた頃、トルマリンがマイナスイオンを発生させる仕組みは「摩擦と温度」である事がわかり、空調の吹き出し口に使えないかと頭の中をよぎったのである。吹き出し口は絶えず風によって摩擦が生じ、冷暖房の温度もあり、理論上マイナスイオンが発生するはずである。そこで、草刈社長に紹介していただいた山形大学理学部の崎山助教教授にお願いして試作品のイオン測定をしてもらったところ、ダクトからの風速が秒速三メートル程度でも一秒あたり三千個以上のマイナスイオンが発生していることが確認された。

実用化のめどが立ったため、翌日、特許関係について調べたところ、松下電器産業(株)がコロナ放電で発生させる方法に関する特許を申請済みだったものの、トルマリンを使った自然イオン発生方法に関する申請はまだ出ていないようだった。早速、山形駅前の中村特許事務所へ依頼し、実用新案の許可を取った(現在特許は申請中)。



共同開発した製品「トルマ・ブリーズ」(上)とその設置例(下)

ただ、実際に事業化すると「資金開発・試作・試験・販売・経費」とさまざまなハードルを乗り越えなければならず、現実には非常に厳しい。また、別会社である小林ダクト工業(株)の本業はダクト工事業であるた

め、ダクト工事では強みを発揮できるものの、異業種の仕事が来た場合には各専門分野の他社に丸投げして処理する事になる。しかも外注にはお金がかかる。お金をかけずに「開発・試作・試験・販売」を成立させるためにはどうすればいいのか?そこで思いついたのが、「能力のある企業が数多く集って会社を作ればいい」ということだった。声をかけたのは小林ダクト工業(株)と同じくダクトを取り扱う宮城県の伸栄工業(株)と大場工業(株)、神奈川県に本社がある商社のバンテージ工業(株)、県内で樹脂加工を専門にする(株)山形大光、そして同じく県内の芳賀長悦会計事務所である。新たに設立したイオンテクノ(株)は異業種六社が結集したプロジェクト形式で運営することにしたのである。

弊社は社員を置かないため社会保険の加入といった事務処理も必要なく、マネジメントは芳賀長悦会計事務所が担当している。また、一社で新たな商品開発を行う場合には膨大なランニングコストがかかるが、各社のハード・ソフト・経験を使うことで弊社自体の負担を軽減しながらも、各専門分野のデータや技術を最大限に生かした実験・試作・試験を行える。さらに、各業界のあらゆる視点からアイデアを構築するので、従来にないヒット商品が生まれる可能性も大きい。加えて、弊社の場合、取り組んでいるメンバーは各企業のトップだから即断即決が容易だ。こうした企業連携のメリットをフルに生かしたことで、実際、マイナスイオン発生機能付き吹き出し口「トルマ・ブリーズ」(写真)は、構想から約半年で商品化に成功したのである。

「トルマ・ブリーズ」の国内における販路開

拓は、宮城県ダクト工業会会長を務める大場工業(株)と山形県ダクト工業会会長を務める小林ダクト工業(株)が各々の販路を活用する形で担当し、現在九州の共立エアテック(株)並びに東京の共同工業(株)と商談中である。また、海外の販路開拓にも取り組んでおり、バンテージ工業(株)がその担当をしている。現在は韓国への進出を予定しているが、国際特許申請にかかる約二百五十万円の経費を節約するため、韓国の会社にノウハウを提供するかわりに共同申請する事でまったく費用がかからないようにすべく、現在ソウルで商談中だ。

なお、マイナスイオン発生機能付き吹き出し口「トルマ・ブリーズ」を出発点に、今後さまざまな製品開発・販売を展開していく予定である。ちなみに現在は、私が寒河江青果市場を経営していることもあり、そこでのノウハウを生かしながらトルマリンを野菜の鮮度保持に活用するアイデアの商品化に取り組んでいるところである。

小林 忠宗

イオンテクノ株式会社取締役社長。
昭和62年小林ダクト工業(株)代表取締役。
平成12年山形県ダクト工業会会長。
平成14年東北ダクト工業会副会長。
寒河江青果市場(株)代表取締役。
イオンテクノ(株)代表取締役。
お問い合わせ先
イオンテクノ株式会社
住所：寒河江市日田五反25-3
小林ダクト工業(株)内
TEL 0237-86-3911 FAX 0237-86-2799